

「COVID-19 母子感染経路の同定および新生児 COVID-19 の追跡調査」 多施設共同前向き観察研究、ご協力の要請

日本新生児成育医学会の学会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

2019年12月に中国武漢に端を発しました、新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)は瞬く間にパンデミックとなり、現在も世界中で猛威を振るっております。今後、COVID-19の第3波、第4波、季節性化も考えられ、with Coronaの生活形態への変化が求められております。しかしながら、COVID-19母子感染に関する情報はあまりに少なく、垂直感染の有無、経路、新生児(先天性)COVID-19の神経学的予後も不明な状況です。

国立国際医療研究センターでは、2020年4月より、新型コロナウイルスに対する周産期医療の確立をはかり、本研究を多施設共同研究で立ち上げております。現在、東京都内の7施設が共同で研究を進めております。母子感染経路の同定から、母子感染の予防が可能となり、新生児COVID-19の症状・予後を明らかにすることにより、治療介入の必要性などを検討できると考えております。

本研究では、胎内感染も評価するため、妊娠中にCOVID-19に罹患したすべての妊婦さんとその新生児を対象として、鼻咽頭、血液、臍ぬぐい液、胎盤、羊水、臍帯血、母乳、皮膚(乳首)から検体を得て、PCR検査を行うことが主軸となっております。

現段階では、COVID-19母子感染についての有用な情報を発信するには、症例数が非常に少ない状況です。

今後、長期化すると思われるwith Coronaの時代に対し、早期に、適切な周産期医療を確立するためにも、1施設でも多くのご施設にご協力いただければ幸いです*。

※:地域周産期・総合周産期センターにつきましては、当院での中央倫理迅速審査にて、1カ月弱でのご参加が可能です。その他のご施設では、当院の中央倫理審査もしくは自施設の倫理審査とさせていただきます、ご参加に少々お時間をいただきます。

ご協力いただけるようでしたら、下記の研究代表者までご連絡いただけますよう、なにとぞよろしく願いいたします。

2020年10月20日

研究代表者:赤松 智久

e-mail:takamatsu@hosp.ncgm.go.jp

国立国際医療研究センター病院 新生児科(小児科)